

地域エネルギービジョン策定に着手

町は本年度、環境問題やエネルギー問題の解決に向け、有効な手段となる新エネルギーの導入や利用計画などの基本方針を定める「山田町地域エネルギービジョン」を策定します。新エネルギー・産業技術総合開発機構

(NEDO)への申請が採択され実施するもので、ビジョンが策定されると、新エネルギーの導入や研究への支援が各方面から受けられるようになります。策定委員会は、東北大学の齋藤文良教授を委員長に、住民団体や地域産業関係者など11人の委員で構成。第1回策定委員会は7月30日に開催されました。

なぜビジョンが必要か？

今までのエネルギーは、ほとんどが石油などの化石燃料に依存していました。しかし近年、化石燃料の使用により排出される二酸化炭素が地球温暖化の原因になっていることから、化石燃料に変わる新エネルギーへの転換が迫られています。

新エネルギーとは、自然の力を利用したり、今まで使われずに捨てていたエネルギーを有効に使う地球に優しいエネルギーで▼太陽の熱や光、風力などを利用する自然エネルギー▼廃棄物や工場の廃熱など、今まで捨てていたものを再利用するリサイクルエネルギー▼今までも

使っていたエネルギーを新しい技術で効率良く使う従来エネルギーの再利用——の3つに分類されます。

近年の地球温暖化をはじめとする環境問題は、本町の主産業である漁業においても漁獲量の減少などに影響を及ぼしていると考えられます。町としても環境の悪化を少しでも止めるために、環境政策に前向きに取り組んでいく必要があります。

住民の意識・意向を反映

策定委員会では今後、来年2月のビジョン完成に向けて住民アンケートや各種調査を行い、皆さんの新エネルギーに対する意識や意向を反映させ、本町の特徴を生かしたビジョン作りを進めます。

新エネルギー導入促進を通じて町の環境を守り、将来を担う子供たちが誇りを持てるまちづくりを実現するため、本事業へのご協力をお願いします。

◆問い合わせ 町企画財政課企画担当 (☎82-3111内線438) へどうぞ。

全国各地で土砂災害が発生

危険を感じたら早めの避難を

全国各地で土石流や地すべり、がけ崩れなどの土砂災害が発生しています。特に近年は、「ゲリラ豪雨」とよばれる予測困難な突如の局地的豪雨により、甚大な被害が多く発生するようになってきました。

土砂災害は、集中豪雨や長雨が引き金となって起こ



平成9年に起きた大雨によるがけ崩れ(船越地区)

るケースがほとんどです。1時間に20㎜以上の大雨が降ったり、降り始めからの雨量が100㎜を超えたりすると、注意が必要です。

土砂災害が発生する前には、次のような前兆現象がみられることがあります。がけ地や川のそばなど災害が発生する恐れのある場所で前兆に気付いたときや危険を感じたときは、すぐに避難するようにしましょう。

- 土石流の前兆
 - ・山鳴りがする
 - ・雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
 - ・川の水が急に濁ったり、流木が混ざったりする
- がけ崩れの前兆
 - ・がけから水がわき出る
 - ・がけに亀裂が入ったり、小石が落ちてくる
 - ・がけから音がする
- 地すべりの前兆
 - ・地面にひび割れができる
 - ・井戸や沢の水が濁る
 - ・がけや斜面から水が吹き出す

◆問い合わせ 町総務課文書情報防災チーム (☎82-3111内線460) へどうぞ。